

次の例会は美味しい 楽しい 3 年連続大好評

第 228 回例会 神戸でクック&テイスト NZ ラム&ビーフ

Cook and Taste NZ lamb & beef in Kobe

日時: 5 月 14 日(土) 10:30~13:45

場所: こうべ市民福祉交流センター 調理室

「三ノ宮」駅より徒歩 15 分/
 ポートライナー「貿易センター前」から徒歩 5 分
 市バス 7 系統「市民福祉交流センター前」正面

プログラム(予定):

10 時 00 分 受付開始

10 時 30 分 7 班に分かれて調理開始

11 時 45 分 試食タイム

13 時 00 分 あとかたつけ

例会費: 2,000 円(当日お支払ください)

飲みもの: B Y O(各自ご持参ください)

当日の連絡先: 090 1952 9370 呉橋携帯
 お申込は最終締切 5 月 9 日(月)までに事務局へ。
 エプロンご持参ください。尚、ラム肉は ANZCO
 フーズ様より特別価格で、ビーフは NZ ビーフ &
 ラム様よりご提供いただきます。



無敵 火鍋しゃぶしゃぶ



これはいける。ラムカレー



和風みそ味 香菜焼にチャレンジ



定番 ラムのロースト。旨い!



デザートはもちろんパブロバ
 今年も専門家チームが。

上記は調理例です。メニューは変更になります。今年は NZ の方が特別のレシピを披露して下さるかもしれません。ご期待ください。

事務局: 〒530-0028 大阪市北区万歳町 3-41 城野ビル 201

電話: (06) 6367 1773 FAX: (06) 6367 1793 makltd@d1.dion.ne.jp

ホームページ <http://nzsocietykansai.com/>

ニュージーランド大使館ホームページより転載

New Zealand Embassy Tokyo, Japan

John Key expresses condolences
to the people of Japan

ジョン・キー ニュージーランド首相が

国会において日本に向け哀悼の意を表明

2011 年 3 月 15 日

I move that this House express its condolences to the people of Japan for the losses they have suffered as a result of the recent earthquake and tsunami.

A magnitude 9.0 earthquake struck northern Japan on Friday the 11th of March at 6.46pm New Zealand time. The earthquake caused a huge tsunami which has devastated parts of Japan's north-eastern coast. It was also felt to a lesser extent around the Pacific.

Thousands of people in Japan's north-east are dead or missing. The extent of the number of casualties is only just becoming clear

3月11日金曜日、ニュージーランド時間の午後6時46分に、日本の東北地方をマグニチュード9.0の地震が襲いました。地震は巨大な津波を引き起こし、東北地方沿岸は壊滅的な打撃を受けました。太平洋周辺諸国においても日本ほどではないものの影響がありました。日本の東北地方を中心に何千もの人々が命を落とし、今なお何千もの人々が行方不明となっています。そして今、死傷者数の規模が徐々に明らかになりつつあります。

There are no reports so far of New Zealand casualties, but our authorities are continuing to work hard to establish whether any New Zealanders have been caught up in this disaster. Aftershocks of a magnitude greater than five are continuing, and there are concerns related to damage at the Fukushima nuclear plant. Mr Speaker, as the extent of this terrible tragedy unfolds, I wish to express the deepest sympathies and condolences of the New Zealand Government to Japan. Our hearts go out to all those affected, especially those who have lost loved ones or those who are waiting to hear news of loved ones. I'd particularly like to acknowledge all New Zealanders who are in Japan. We are thinking of you.

ニュージーランド人死傷者は現在まで報告されていませんが、災害に巻き込まれたニュージーランド人がいないか両国の関連当局が懸命に確認作業を進めています。現在もマグニチュード5以上の余震が続くなか、福島原子力発電所の損傷に関連する被害が懸念されています。この壊滅的な災害の程度が明らかになるにつれ、私は、ニュージーランド政府より日本に向けて、心より深い哀悼の意を表したいと思います。私たちは、被災したすべての人々に、とりわけ愛する家族を失った方々、家族の安否確認を待っておられる方々に深い同情を禁じえません。特に、現在日本にいるすべてのニュージーランド人にも、私たちの思いはあなた方と共にあることを知らせたいと思います。

New Zealanders have watched in horror and disbelief the scenes of destruction in Japan following the earthquake and tsunami.

We have recently experienced our own deadly earthquake, so it was with very raw emotion that we heard of the devastation and loss of life in Japan.

Unfortunately we know all too well the pain, stress, and heartbreak that can be caused by a natural disaster such as this.

ニュージーランド人は、地震と津波の直後に起こった破壊の映像を信じられない恐怖で目にしました。我が国も死傷者をともなう大地震に見舞われたばかりであり、日本の惨状と犠牲者の情報に接し、その心痛を共有しています。不運にも、私たちもこのような自然災害がもたらす苦悩やストレスそして悲痛な思いを、嫌というほど知っています。

Last night I spoke to the Prime Minister of Japan. I have met Prime Minister Kan on a number of occasions, most recently at the APEC Summit in Yokohama last November. It was good to speak to him over the phone and personally convey my sympathies. I asked Prime Minister Kan to pass on the thoughts and condolences of New Zealanders to the people of Japan. He explained to me the enormous devastation that Japan is facing, and he said that the Japanese government and people are united in dealing with the situation. He passed on Japan's sincere appreciation for

New Zealand's support, including the swift dispatch of a New Zealand Urban Search and Rescue team, which is in Japan now. Prime Minister Kan also renewed his condolences for the people of Christchurch following the February earthquake.

昨晚、日本の菅首相と話しをすることができました。菅首相とは何度かお目にかかっており、直近では昨年 11 月に横浜で開催された APEC 首脳会議の際でした。首相に電話で個人的にお見舞いの言葉をお伝えいたしました。菅首相には、日本国民の皆様にもニュージーランド国民の哀悼の念をお伝えくださるよう、願ひ申し上げました。首相は、日本が直面している未曾有の被害について説明され、日本政府と国民はこの惨状に対処すべく一丸となって取り組んでいる、と語られました。また、現在日本で展開中のニュージーランド捜索救助隊の迅速な派遣を含むニュージーランドの支援に対し謝意を述べられました。また、菅首相から 2 月に起きたクライストチャーチ大地震の被災者に対して、再びお見舞いの言葉をいただきました。

New Zealand and Japan are great friends. Japan is our fourth largest trading partner. Many New Zealanders have lived in or visited Japan, and many Japanese people have lived in or visited New Zealand. We value the strong relationship between our two countries, and I know the recent tragedies here and in Japan will bring our people even closer.

ニュージーランドと日本は素晴らしい友人であります。日本は我が国にとって第 4 位の貿易相手国であり、これまでに多くのニュージーランド人が日本を訪れ、また滞在しています。一方、日本からも多くの人々が我が国を訪れ、滞在しています。両国の緊密な関係は我が国にとって重要です。我が国も日本も最近悲劇に見舞われましたが、これがむしろ両国の関係をよりいっそう深いものにするでしょう。

When Christchurch was devastated by an earthquake just three weeks ago, Japan was one of many countries which offered immediate assistance. We were delighted to accept Japan's offer of urban search and rescue personnel to assist in our rescue and recovery operation.

ちょうど 3 週間前、クライストチャーチが震災で被害を受けた時、日本をはじめ多数の国々が即時支援の手を差し伸べてくださいました。日本の捜索救助隊の協力は、私たちの救助、収容活動の大きな助けとなりました。

Mr Speaker, New Zealand will help in any way we can as Japan overcomes this tragedy. Japan stood by us in our time of need and we will stand by Japan in its time of need. Our urban search and rescue team is now deployed in the field in Japan, alongside the Australian team. We are grateful to Japan and the United States for supporting this deployment. In addition to this team, we will be happy to provide whatever assistance we can in the days and weeks ahead.

日本がこの惨事を乗り越えられますよう、ニュージーランドとして可能な限り支援する所存です。私たちが困った時に日本は力を貸してくださいました。私たちも同様に、日本が必要とする時に援助をおしみません。我が国の捜索救助隊はオーストラリア隊とともに既に日本で現地入りし、活動を開始しました。支援活動にあたり、日本とアメリカの協力を得られましたことを感謝いたします。捜索救助隊派遣に加えて、今後も引き続き出来る限り支援して参ります。

Our heartfelt thoughts are with the people of Japan as they come to terms with this disaster and mourn the loss of so many lives.

私たちの心は日本国民の皆様と共にあり、被災地で犠牲となった多くの方々に深く哀悼の意を表します。
(NZ大使館ホームページより転載)

クライストチャーチ地震の募金報告と 2011 年度のご挨拶 会長 呉橋真人

2010 年度は協会の 40 周年でした。皆様のご協力と激励に感謝いたします。年間を通じて記念事業を展開し、300 名近い方たちに例会にご参加いただきました。同封の総会報告をご一読いただけますようお願い申し上げます。

2月22日のクライストチャーチ大地震は衝撃でした。
会員そして一般の方たちからの「協会は何をしますか？」
「何かできることはありませんか？」「手伝わせてください」と
いう声に押されて2月26日より神戸三宮で街頭募金を開始
いたしました。

また1995年に協会が窓口となり実施した「69名が参加し
た阪神淡路大震災被災者クライストチャーチ・ホームステイ
一時避難プログラム」について共同通信、神戸新聞、朝日
新聞、読売新聞、日経新聞、NHK、朝日放送から次々と取
材があり、記事に感激された方たちからも募金をいただき
ました。ホームページに皆様のお名前とメッセージを掲載し
ております。

募金活動には会員だけでなく、NZと関わりのあるボラン
ティアも多く駆けつけてくれました。1995年の上記プログラ
ムに参加した皆さんも手伝ってくれました。

3月12日、13日を最終日として神戸、大阪で60名以上
の高校生と一緒に街頭募金を行う予定でしたが、3月11日
の東日本大地震を発生を受け、同日3時45分に中止を決
断しました。

募金総額は1,874,332円に達し、クライストチャーチ市役
所へ30260.26ニュージーランドドルをお渡ししました。それ
に対してイアン・ケネディ大使より感謝と東日本大震災への
見舞いの手紙をいただきました。皆様のお志に感謝いたし
ます。日本での報告のため現地で新聞記事になるよう運動
中です。ちなみに姉妹都市の倉敷市は1800万円を送金し
たそうです。

2011年度は恒例の例会はじめ、いくつかの臨時例会を考
えております。特にすっかり報道の途絶えたクライストチャ
ーチ地震について公開報告会を9月か10月に行いたいと思
います。体験を語れる方にお心当たりがありましたらお
教えてください。

5年後、10年後の協会の活動をイメージして、特にこの協
会ならではの特色あるかつ建設的な事業のご提案、そして
随時会報に掲載する皆様のご投稿をお待ちしております。

柳弘日本ニュージーランド協会会長計報

2月24日柳弘日本ニュージーランド協会会長が心筋梗塞
で急死されました。前夜、クライストチャーチ大地震の件
でメールを交わしたのが最後となりました。Dr 川瀬の大ファ
ンで私たちの40周年にも惜しみなくご協力くださいました。
協会からはお花をお供えいたしました。総会報告書に奥様
にお聞きした柳様の人となり掲載いたしました。お人柄を
お忍びください。ご冥福をお祈りいたします。

日本ニュージーランド協会(関西) 「40周年記念エッセイ発行」と「40年の歩み」発行

ご投稿いただいた皆様へ感謝いたします。「この方はNZ
でこんな体験をしたのだ。この方はこんな関わりがあったの
だ。」編集していて新鮮な感動を何度も味わいました。
名作、力作がたくさんありました。今回ご投稿でない方はぜ
ひNZとのかかわりについていつでも原稿をお寄せください

年会費郵便振替用紙と返信用はがき同封の件

年会費3000円(一世帯あたり)を5月末日までにご送金
いただけますようお願い申し上げます。

はがきはアンケートになっています。すぐにご投函くださ
い。協会の支出を抑えるため、PDFファイルで会報のeメー
ル送信をOKしてくださるかどうか、名簿に名前以外の項目
掲載OKかどうかの重要な質問があります。

2011年度例会カレンダー

日時	場所	内容
228 回例会 5/14(土) 10:30 開始	こうべ市民 福祉交流 センター	NZ ラム&ビーフ調理と試 食例会。会費 2,000 円
臨時例会 6/18(土) 10:45 現地 集合	国立民族学 博物館	11:00 より1 時間ほど、本 館オセアニア展示をマシユ ー准教授(NZ)が解説。 入館料 420 円
229 回例会	南丹市	NZ クルーサ連合地区との

7/3(日) 11:30 現地 集合	(旧日吉、美 山、園部)	姉妹都市を訪問。交流と 観光。神戸、大阪から自家 用車で同乗。実費割勘
臨時例会 9月か10月	未定	クライストチャーチ地震に ついて公開報告会予定
230 回例会 11/20(日) 10:40 現地 集合	近鉄吉野線 下市口駅 から小型バス	太津さんの果樹園で柿狩 りと散策観光。 昼食とバス代 2,000 円
231 回例会 12/23(金・ 祝日) 11:30 開始	神戸外国 倶楽部	クリスマス会 6,000 円
232 回例会 1月か2月	未定	NZ 人講師を招き、講演会 のような例会を予定

例会、臨時例会のご提案を待望しております。

■6月18日のみんぱくは参加希望者へ待ち合わせ場所をお知らせします。

■7月3日も参加希望者へ連絡して車の分乗や現地での過ごし方をアドバイスいたします。

とりえず同封のハガキで参加・不参加・未定をすぐにご投函いただけますようお願いいたします。

第 226 回例会報告 ワイン会レポート 行天幸子

はじめに私とワインそして NZ の出会いを少しだけ、紹介致します。

私の旅の目的のひとつに、まずその国のことを知りたいという好奇心から始まります。自然、文化、歴史、経済、暮らす人々の習慣、そして食と…

初めての海外が、16年前に訪問したニュージーランドでした。その10ヶ月前に留学していた長女の学校長、お世話になった先生、支えてくださったホストファミリーの方々への挨拶と御礼が目的でした。一人での出発のために、少し不安とワクワクした興奮はまるで子供の時のお出かけ前と同じでしたね。

夜、レストランに案内されて、そこで頂いた香草ラム、芳醇な香りとともにグラスに注がれた赤ワイン(ピノノール)、アート感覚のデザートなど。まさにこの時より NZ ワインの魅

力に心動かされた事は間違いありません。そして親愛なる人とともに何度も一緒に旅をすることにより自然の美しさ、心の大切さ、そして美味しいワインとの出会いを知ることが始まりました。

さて本題に入りましょう。今回のワイン会の計画が持ち上がったのは昨年11月の40周年祝賀会に私のワイン関係の友人の二人が参加しており、そこで呉橋会長に紹介したところ、「ようこそ、せっかくのチャンスだから是非とも、NZのワイン会を提案しますよ。」と言う一声から準備の運びとなりました。協会運営の活動には年初の事業計画以外にも NZ からの訪問ゲスト、臨時例会などの交流は積極的に取り組んでおけると言う事も良いところです。日程は3月12日と決定して準備を進めてきていたところ、折しも2月22日のクライストチャーチの震災の為に神戸、大阪での募金活動が始まりました。

予定の12日が近づいて来ても正直言って、こんな時にワイン会などして良いのか？と自問自答に悩みました。そんな時に参加申込のあること、久しぶりにお会いできる会員の方の名前を見つけた時にもう迷わないで「よしやろう！」と決めたのが3日前でした。

それから急いで食材の手配に奮闘して、準備も完了出来たのが11日の朝の東日本大震災の朝でした。参加者は12名でした。もうやめよう！やれば！どうしよう？(私の性格は迷った時は前に進もう)と決断。その夜は12時近くまでソムリエの友人と打ち合わせをして当日の確認が出来ました。

そして翌日、都島文化教室で2時に参加者は予定より多く当日参加者を含めて21名で始まりました。桑原さんの紹介で初参加者の方も含めて和やかななかでのスタートとなりました。格式の高いワイン会も素晴らしいと思いますが、私のプログラムのワイン会は、「人、食、そして美味なワイン」通常のワイン会にはフードは用意されませんが、私のトライアングルの融合こそ本来のワインを楽しむ会として意義あると思っておりました。それこそ NZ スタイルとかねがね考えておりましたのでそんな会がしたくて準備してきました。ですからフードには何人かの方に働きかけて応援していただき無理も引き受けてくださりました。

まず、白ワイン(ソービニョンブラウン、シャルドネ)と赤ワイン(ピノノアール、カベルネソービョンブラウン)と NZ ワインの中でも代表される4種類を選びました。ハム、チーズ、ソーセージ、チーズオリーブ等を揃えました。

当日は私の友人でソムリエの井上佳子さんがサービスにお手伝いをしていただくこととなり神戸から駆けつけてくださり、鮮やかに次々とグラスに注ぎ分けていかれました。手際のいいサービスはやはりプロの技ですね。彼女はフランスのワインが主流で扱っているのですが、普段はなかなか NZ ワインに出会うことが少ないが今回の4種は全く感じの違うものでそれぞれにしっかり味わいのあるしっかりしたもので、改めて NZ ワインの美味なところに惹かれましたとお褒めの言葉も戴きました。

そして何より時間の経つことを忘れさすぐらいに会員の皆さんの会話が弾み、予想通りの空間と弾みました。

終盤のサプライズは祝賀会のお祝いの NZ 大使からのプレゼントワインを最大、最高の中でふるまわれました。アツという間の2時間でお開きとなりました。

服部様、近藤様、井上様、岡村様、手島様の皆様には大変お世話になりまして有難うございました

参加者 22 名(敬称略)

荒田利男、石井久行、井上桂子、井上佳久、片波見徳将、木下和子、行天幸子、行天茂夫、小林さや子、下田恭子、下田英智、永田美夜子、西川賢一、西村守康、服部雅裕、林園子、林弘子、塙幸子、正木紀通、柳田勘次、山内龍男、山田輝子

収入		支出	
例会費	63000	会場費	3000
ワイン買取	9500	ワインと水	28759
		キッシュハムオリーブ	19166
		交通費	980
合計	72500	合計	51905
20595 円の黒字でした			

第 227 回例会「総会」が中央電気倶楽部・会員特別食堂で行われました。

最初にクライストチャーチ大地震の犠牲者、柳弘日本ニュージーランド協会会長、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈り 1 分間の黙祷をいたしました。

総会は、佐藤徹さんを議長に選出した後、2010 年度事業報告、会計報告、監査報告が行われました。続いて、2011 年度事業計画、予算案が説明され、何れも承認されました。2010 年度は当協会のトピックスとして、「創立 40 周年祝賀会」や「川瀬元会長のリンカーン大学記念銘板除幕式」等がありました。また、2 月にクライストチャーチで起きた NZ 南島大地震に対して、本協会が行った募金活動も特別な出来事でした。

さて、総会後は昼食をいただきました。ビールは倶楽部からの差し入れて、ワインは石井さんが用意してくれました。この食堂のラム肉料理は美味でした。途中、ゲストのキャシーさんとマシウスさんの話がありました。キャシーさんは石井さんと関西空港で会ったのが縁でこの例会に来てくれたとの事でした。京都で英語の先生をしているそうで、趣味の写真イメージ(PC を使ったの)を見せていただきました。マシウスさんは、国立民俗学博物館の研究者です。タロイモ(里芋)の事以外に、ワラビから採れるデンプンのことが話題に出ました。フード・セキュリティとは、単に安全ということではなくて栄養も含めた意味だとか。アボカド・トマト・納豆を混ぜると食品として素晴らしいとの事でした。この日も話題になりましたが、民博での例会「オセアニア大航海展」(2007)で、舞台での挨拶に立ったマシウスさんのサンダル姿(確か、麦わら帽子?、アロハシャツ? だったように記憶しています。)は忘れられません。食事時は終始、和やかな雰囲気の中で会話が弾みました。私は、隣の席の村瀬さんとたくさん話をしました。

また、この例会では、「日本ニュージーランド協会(関西) 40 年の歩み」が配布されました。創設時から現在までの例会等の出来事が載っています。本協会もたくさんの出来事・活動の積み重ねがあって今日があるのだと改めて思いました。

2011年度は、「ビーフ&ラム」、「南丹市訪問」、「柿狩り」、「クリスマス」等の例会が予定されています。今年度も多くの皆様が参加され、親睦を深め、楽しい有意義な時間を過ごしたいと思います。

参加者：総会 20 名、懇親会 22 名 氏名は同封の総会報告に記載してあります。

収入		支出	
例会費	75500	会場費	3500
ワイン売上	9000	食事	72104
		ワインと持込料	8031
		コピー	575
合計	84500	合計	84210
290 円の黒字でした			

NZの地震保険とACC(事故損額補償制度)

NZでは法律(1993 年)により地震保険は地震委員会(EQC)という公社(AGENT)が運営しており住宅は強制加入です。民間の火災保険にこの地震保険が含まれていますので徴収は民間の保険会社が行っています。補償の上限は住居 10 万ドル(650 万円)、家財2万ドル(130 万円)で、保険料は住居について言えば上限の 10 万ドルに対して年間 50ドル(3150 円)+GSTです。それ以上については民間の保険で補います。年間徴収額の 3/4 は再保険料として世界の保険シンジケートに支払われています。しかし、10 万ドル上限ではここ 20 年で 5 倍以上にも高騰した住宅価格にとても追いついてはいません。

またNZにはACC(Accident Compensation Corporation)事故損害補償公社があり、外国人もNZでの事故での傷害医療費はACCが認めたものは限度額なく支払われます。またNZ人へは海外で事故にあってもACCが傷害医療費を支払います。ただしあくまで**傷害治療費用**だけです。ACCは疾病治療費用は一切カバーしません。

その代わりNZでは傷害事故の民事訴訟を起こすことはできません。一見優れて人道的な制度に思えるACCは、傷害に関する民事裁判制度を維持するためにかかる費用より割安だからというきわめて合理的な裏付けがあります。

財源は国民、とくに雇用者が多く払っています。被雇用者の場合は収入の 2.04%です。最近では医療費高騰で苦しんでいます。過去ACCはずっと黒字でした。

ただしACCは事故での死亡に対し、2010 年～2011 年ですと葬儀費用として上限 5541.23 ドル＝36 万円、遺族へは、パートナー(伴侶)に対して、非課税の 5940.91 ドル(38 万 6 千円)、18 歳以下の子供に対して一人あたり 2970.47 ドル(19 万 3 千円)に過ぎません。日本を含む死亡した外国人留学生にはACCからは最大 38 万6千円しかNZ政府からの補償がないのです。尚、殺人の犠牲者の場合は葬儀費用も含めて上限 1 万ドルが(65 万円)ACC から遺族に支払われることになっています。

この金額は毎年変わります。またNZに所得税を払っている人が死亡した場合には最長 4 年間、上限 14 歳までの遺児育児手当もあります。一人っ子の場合は週に 122.33 ドル＝8000 円です。

日本の健康保険の場合、埋葬料が死亡者の標準報酬月額を限度として(最低額5万円)出ますが、事故死亡の遺族に対しての支払いは一切ありませんので、NZの方が手厚いといえます。

CTVビルが欠陥ビルであった事、あるいは関係者の過失が証明されたとしても、上記のように民事裁判を起こすことができませんので賠償金を要求できません。あとは民間の死亡傷害保険と赤十字からの見舞金しかありません。

死亡事故にはACCはほぼ無力です。ACCは死亡保険をわずかに含む傷害保険であって、生命保険ではありません。

「NZは外国人旅行者にも適用されるACCがあるから海外旅行の保険は不要」、極端な場合「レンタカーの保険も不要」という方が時々いらっしゃいますが大きな誤解です。上記のように傷害治療費用しかカバーしませんし、死亡事故の場合の補償はわずかです。

NZの語学学校はこの誤解を良く知っていて、入学者には任意保険の加入を義務付けています。

負傷者が任意の傷害保険に入っている場合の治療費はまずその保険で支払われ、不足する場合ACCが補てんします。ACCが旅行者へも適用されるNZへ旅行する時こそNZの政府と国民に負担をかけないように海外旅行傷害保険に加入することをお勧めします。（呉橋真人記）

寄稿

日本とニュージーランドの交流事始

— 野田朝次郎と月川喜代平 —

西川 賢一

ニュージーランドへ上陸した最初の日本人は、種々の記録から割出して、野田朝次郎とされている。朝次郎の父親は長崎の船大工で、ある日、長崎の港にはいった英国船から修理を頼まれる。その仕事ぶりに満足した船長は大工を船に招き、感謝の宴を催した。その際、大工は7歳か8歳の息子朝次郎を連れて乗船。宴が終わり、ほろ酔い機嫌の父親は朝次郎を置いて船を降りてしまった。一方の朝次郎は、船内のどこかにもぐり込み、そのまま眠ってしまい、気がついたときははるか洋上を航海中でどうにもならない。やがてこれから日本に向かうというドイツ船とすれ違ったので、英国船の船員が交渉し、日本まで送ってもらうことになった。

しかしこの話はまだ終わらない。まるで嘘みたいな話が續いていく。そのドイツ船は結局日本に立ち寄りなかったのである。少年は船のボーイとなって働き、そのまま10年が過ぎる。ドイツ語は覚えたが、日本語や故郷のことは忘れかけていた1890年（明治23年）ごろのことである。船はニュージーランドに立ち寄る。南島最南端のインバカーギルという港町だった。17、8歳になった朝次郎はここで船を降り、この国で暮らそうと決意する。商店の会計係などしながら、英語もマスターする。ここで数年間生活したあと北島に移り、マオリ人女性と結婚し、3男2女の子供に恵まれる。

そのころから朝次郎は園芸に専念しはじめ、様々な品種改良をはかり、特に苺の栽培で成功し、財をなした。

朝次郎は太平洋戦争のさなかの1942年（昭和17年）初め、半世紀を過ごした南半球のこの国で息を引き取った。享年70歳前後だったとみられる。

時は移り、今から20年前のことである。ニュージーランド事情に詳しい田辺真人氏（元当協会副会長）は、朝次郎の出身地、熊本県天草に血縁者を突き止め、日本オセアニア交流協会の協力を得て、海を隔てた朝次郎の孫と甥ら、親族同士の対面を実現させる。海を越えた2家族の対面は地元でも話題を呼び、熊本日日新聞が大きく報じた。

2人目の日系ニュージーランド移住者とされるのは月川喜代平である。朝次郎がボタンの掛け違いから、たまたま海外へ出るようになったのに対し、喜代平の場合は覚悟の祖国脱出であった。

喜代平の生家は代々神官を司っていたが、彼が幼少の頃、父が事業に失敗したため、小学校を卒業すると、見習い水夫となって働いた。19歳のとき、わずかな金を持って家出し、長崎に行った。ある船に乗り込み、デッキの積み荷に隠れて、上海へと密航する。現地で英語を学び、20歳のころ英国船に雇われ、以後日本船、米国船と移りながら船乗りとして世界各地を巡る。

1895年（明治28年）6月、乗り込んでいた船がダニーデンに寄港する。喜代平はこの時、船長と口論となり、船から脱走し、そのままこの国へ住みつくことになった。上陸するとまもなく、大農場に就職、さらに砂金浚渫技師へと転じた。

だが、強い望郷の念に駆られ、郷里の長崎県五島列島に帰国している。喜代平28歳のときである。この国へきて7年の月日が流れていた。故郷へ戻ってみたものの、貧しい離島では生涯を託す仕事を見つけることができなかった。その年のうちに、ニュージーランドへ戻ろうとしたが、香港までたどり着いたものの、その先の旅費の工面ができなかった。

ところがある日、たまたま港にオーストラリア、ニュージーランドへ向かう日本海軍の練習船を見つけ、交渉の結果、乗船が認められた。時間は要したが、オーストラリア経由で再びダニーデンの町へ戻ることができた。

気を取り直した喜代平の刻苦精励はここから始まる。農業技師、輸送船の技師などとして働き、上陸12年後の1907年（明治40年）、念願の国籍を手に入れる。ここで喜代

平は今後の進むべき道について大きな決断を迫られる。牧場を始めるべきか、航海技術を学んで船長資格を取るべきかと考えたすえに、船長への道を選んだ。

猛勉強の末、船長の国家試験にパスする。晴れてニュージーランド人となり、公式船長の資格も得た喜代平は、オーストラリア人女性と結婚し、やがて3人の子供に恵まれる。その子らにつけた名前が興味深い。長男と次男には日露戦争の功労者にあやかり、トーゴー（東郷）とノギ（乃木）、そして三男には明治の元勲からイトー（伊藤）と、それぞれ命名したのである。

喜代平は生涯にもう一度、帰国している。1936年（昭和11年）のことである。ふたつの祖国に役立ちたいと、ニュージーランド産品の輸入促進と、日本からの輸出拡大に向け、一民間人としての仲介の労を取ろうとしたのである。時の政府に働きかけるが、アメリカ、イギリスとの関係に暗雲がたちこめていた時期だけに、喜代平の努力も実を結ばず、失意のうちに帰国する。やがて日本は連合国側のニュージーランドと交戦状態に入り、関係が途絶する。

現地の人々から尊敬を集めていた喜代平は、戦争中も拘留されることなく、通常の生活が許されたというが、彼の胸中は複雑だったろう。その後帰国することもないまま、1948年（昭和23年）、74歳で生涯を閉じ、異国の土となった。

拙稿の執筆に際し、主に次の文献を参照した。

「日本ニュージーランド交流史と最初の日本人移住者」田辺真人著/関西ニュージーランド研究会紀要、1996

「熊本日日新聞」1990.11.2 付、同年 11.14 付

「月川喜代平自伝とその背景」田辺真人著/園田学園女子大学論文集第28号、1993

編集者注：「上記の月川喜代平自伝と…」は <http://ci.nii.ac.jp/naid/110000191358> で全文入手できます）ぜひご一読ください。

NZ 留学中の川瀬勇青年は 1932 年月川氏とウェリントンで会っています。川瀬勇追想遺稿集写真ページに「浅間」艦上での二人の記念写真があります。また同書 247 ページには 1939 年 2 月 8 日に発送された月川氏から川瀬青年への手紙の一部が掲載されています。この手紙のオリジナルは

藤村家にあります。

7 月 3 日例会で訪れる南丹市は NZ のクルーサ連合地区と姉妹都市です。中心都市はバルクルーサ、月川氏が船長をしていた町です。

また、当協会の 1978 年 11 月 10 日の第 39 回例会には月川乃木氏（次男）夫妻が参加しています。

イアン・フォーロン日本旅日記より抜粋 1 月 9 日に歓迎会をしたタウマルヌイ高校の 旅行レポートです。

Jan 9 Sun – NZ Friendship Society

After breakfast Mak came to pick us up and all of our gear up on this morning. He took us to his travel agent office, then downstairs to a small restaurant, where we had lunch with the members of the NZ Friendship Society – group members were all sorts of people – from older people with an interest in NZ to younger people in their 20s, one of whom had gone through Waikato University.

Anyway, after lunch, Mr Forlong gave a speech and we had to introduce ourselves, in Japanese.

Then it was onto the subway and off to the Osaka Museum of History. Here first of all we made kites – one each. Then we visited the museum and most of us got to try on kimonos – they had both men's and women's ones.

Then we went outside and flew our kites – Mak had strung all of our kites together so there were about 30 on one string.

Then we headed into the foyer of the museum and taught the society member the start of our school haka – it was just the start as we were running out of time.

We were to stay that night and the next with member of the NZ Society and some of us had met our host families by that stage. Anyway, the others came then and picked us all up – 4 host families in all – and we went home.

Mrs Sharplin, Kerri and Annie stayed together and the pairs were Jennifer and Sarah, Mr Forlong and Kowhai, and Brendan and Ryan.

So we all headed for our new homes and ate and slept very well

Jan 10 Mon – Coming-of-Age Day

すべてお読みになりたい方はご連絡ください。

Japanese young people don't have a 21st birthday party like we do. Instead there is a national holiday on the second Monday of January and, on this day, everyone who will turn 21 in that year, dresses up in kimono (for the girls, and some boys) and suits and goes special ceremonies, which will be in their home town or cities.

2011 was the year for Kiyomi's 'Coming-of-Age' ceremony and we got in.

So we all dressed up in our travel uniforms – school blazers, white shirts and black ties and, for the boys, black pants and, for the girls, black dresses, and headed for 'Tenma' – Kiyomi's suburb, in Osaka.

The ceremony was pretty un-understandable for us, however it wasn't long and we got the gist of us. Then we went outside, where some of them were getting into the alcohol – Japanese can drink from age 20.

Then we headed back in for a lunch and a drumming performance.

Afterwards, the street was crowded so we did our school haka. Some of the Japanese were pretty drunk by this stage and some got right up and in our faces for a while. However, we just carried on, and they seemed to really appreciate it.

Then Kiyomi's mum (who is Chinese) took us out for a snack, then we headed home.

Mr Forlong directed Ryan and Brendan to their train and left them to it – hopefully they got off at the right station – we saw them the next day and they seemed okay.

Jan 11 Tue – Osaka to Toyooka

Mr Ishii (NZ Society member and Ryan and Brendan's host father) works at the Osaka Science and Technology Museum, which has exhibitions from a range of Japanese companies and he took us here in the morning of this day.

After having a look at the displays, many of which were hands-on ones, a retired nuclear physicist talked to us – that was interesting but Mr Ishii stopped him as we had to get to our lunch appointment – at the Osaka HRC – Mr Forlong left his bag with all our group money in it at the museum so Mr Ishii kindly went back and got it.

新刊書紹介 「ニュージーランドのシャワーを浴びて」

三箇 修司著 幻冬舎 1200 円

大阪出身の元教員のNZ旅行記。

「この国に住む人々が、どのような人生を歩んでいるのかが知りたかった。」

ラジオ番組紹介 NHK「地球ラジオ」

毎週土曜・日曜日 17:05～18:50 (生放送)

世界中の現地事情を詳しく知ることでできる番組。昨

NZ ニュース クリップング

NZの地震と経済見通し

3月6日のニュージーランド財務省の発表によると、被害総額は150億NZドル(約9,100億円)です。ニュージーランドの名目GDPは1,946億NZドル(2010年)ですので、名目GDP比は約8%です。財務省の推計では、2011年のGDP成長率を1.5%押し下げる要因となります。名目GDP比8%

は日本なら約 40 兆円に相当します。甚大な被害を受けたわけですが、復興に向け、見通しが立ちつつあります。

3 月 11 日に中央銀行であるニュージーランド準備銀行は、2 つの地震のニュージーランド経済に与える影響を公表しました。その見通しによると、まず短期的な影響として 2011 年 1-3 月期の実質 GDP は 0.6%押し下げられます。原因としては、家計と企業の支出が抑制され、輸出、不動産業、観光業でビジネス機会を失うからです。被害が集中するのは人口の 12%が集中するクライストチャーチですが、他の地域も富(資産)の喪失やコンフィデンス(先行きに対する信任)の低下の悪影響を受けます。不動産がダメージを受けたことから不足し、家賃に上昇圧力がかかります。景気の押し下げは、その後も続きます。

一方、復興需要は 150 億 NZドル(名目 GDP 比 8%)と見積もられています。内訳は、住宅復興に 90 億 NZドル、商業ビルなど非住宅復興に 30 億 NZドル、道路などインフラ復興に 30 億 NZドルとされています。これは莫大な金額です。被災地域の住宅ストックの 15%、非住宅の 20%、インフラの 65%に相当します。被害総額が GDP 比 8%に達することと整合的です。復興は 2012 年から始まり、住宅は 5 年程度、非住宅は 7 年程度かけて出尽くします。

ただし、復興のコストのほとんどは、外国からの保険金受領(再保険をかけている)でカバーされる見通しです。

ニュージーランド準備銀行は「自然災害への備え」と題する論文を 1997 年に出しています。そこでは、自然災害発生時に中央銀行の取るべき対応が列挙されています。そして、災害で生じる被害の大部分は外国から受け取る保険金でカバーできるため、国際流動性(外貨の資金操り)危機が生じない見通しであることも書かれています。今後の復興需要を支える資金は、ほぼ想定通りだったということになります。

災害の規模が甚大かつその GDP 比が 8%と非常に大きかった割には、金融市場への悪影響は極めて限定的です。このように金融市場は非常に落ち着いています。背景にあるのは、ある程度以上の確信を持って経済の先行が見通せることだと考えられます。

(4 月 1 日リソナスタイル 黒瀬浩一)

語学研修中止の中学生が折り鶴作製/横浜

大地震のため、ニュージーランドへの語学研修旅行を中止した私立T学苑中学校(横浜市)の2年生 47 人が、被災者を勇気づけようと、千羽鶴の作製を始めた。完成後の送り先は未定だが、現地や日本のニュージーランド大使館に送ることを検討していくという。

2年生は当初、25 日から3月5日までの日程でニュージーランドを訪問し、ホストファミリー宅でホームステイする予定だった。学校側は、今回の震災を受け、中止を決定した。

お世話になるはずだったホストファミリーや被災者のため、自分たちにできることはないか。皆で紙に書き出し、選んだのが「千羽鶴プロジェクト」だった。2年生全員で折り鶴作りを開始する一方、全校生徒に呼び掛けるため、ポスターと折り鶴回収用のポストも作製・設置した。

(痛いニュース:2 月 26 日)

編集者注:何かしたいという子供たちの善意がわかるだけに、異文化交流の基礎を理解しない教師、美談として取り上げるマスコミの常識を疑います。

JAPAN・NZ Tシャツ発売

ゴールドウインの子会社であるカンタベリー・オブ・ニュージーランドジャパンは 25 日、東北地方太平洋沖地震ならびにニュージーランド地震の被災地復興支援として、「canterbury」ブランドからチャリティ T シャツ「JAPAN・NZ T-SHIRT」を期間限定で発売すると発表した。販売期間は 3 月 26 日～5 月 31 日。



同商品は、被災した日本とニュージーランドが「ともに 1 つのゴール(復興)をめざしてほしい」という願いをこめて、フロント部分に「Together for 2Countries 1Goal」というメッセージをプリントした T シャツ。売上金の全額は、日本赤十字を通じて日本とニュージーランドに 50%ずつ寄付される。

カラーはホワイトとブルーの2色、サイズはメンズのM/L/XLの3種類、取扱いは全国のカンタベリーショップ全23店舗となる。価格は2,000円。

(マイコミジャーナル 3月25日)

編集者注:入荷する度にすぐ売り切れますので、電話で確認してからいらしてください。

クライストチャーチ地震被災者への政府手当金

政府が打ち出したクライストチャーチ地震の災害手当に対し、発表されてから1日をも待たず、1万人以上の人からすでに申し込みがあった。

この6週間の手当給付金の費用は1億2,000万に達し、フルタイム社員には週500ドル、パートタイム従業員には300ドルの代替給が支払われる。

社会開発局によると、1,718人の雇用主とその従業員8,271人、及び1,516人の個人事業主が、すでに申し込みを行ったとのこと。

失業した人も、週400ドルまでの手当を受けることができる。この手当にも788人から申請があったという。
(NZ大好き 社会 2011年3月2日)

日本支援の100万ドルを赤十字に

ニュージーランド政府は、日本復興の支援になるよう赤十字に100万ドルを寄付する。

赤十字が、最も助けが必要な国に、迅速な対応ができるように、この支援金を送る、とMurray McCully外務相。

また外相は、日本とニュージーランドは親密なパートナーであり、今回のような非常事態には助け合うのは自然なことである、とも語った。

2月22日のクライストチャーチの地震の後、日本が救援隊を派遣している。更に外相は、日本から帰国したニュージーランドの救助隊員にも、大いに感謝を示している。
(NZ大好き 社会 2011年3月22日)

救助隊日本より帰国

ニュージーランドから派遣された災害救助隊は、日本より帰国した。隊員52名が引き上げた理由は、福島原子力発電所事故が原因ではない、と関係者は語る。

この決断は容易ではなかったが、もはやニュージーランドの技術は、日本が現在必要としているものと合わない、というのがFire Serviceの責任者Mike Hall氏の説明である。

救助チームのJim Stuart-Black隊長は、人々の命が、地震と津波によりすさまじい力で奪われていったことを目の当たりにし、ショックをうけた、と語った。チーム員は、夜にはマイナス17度になる現地でテントに宿泊し、状況は厳しかったがやりがいのある仕事であったという。

彼らは福島原子力発電所から、北部から130キロの場所で作業を行い、その間放射能レベルを2時間ごとに監視続けていたとのこと。

隊員の1人であるRichard Twomey氏は、「あんな光景をこれまで見たことはない。クライストチャーチの被害を100倍にしても、あれだけひどく破壊されはしないだろう」とインタビューに答えた。
(NZ大好き 社会 2011年3月21日)

クライストチャーチカジノで500名の従業員解雇

クライストチャーチを襲った地震は自然災害の影響から社会的影響へと深刻化しており、フードサービス労働組合の話では、市内中心部のホテル、カフェ、レストラン、映画館は閉まっており、何千もの仕事がなくなっているという。

そんな中、2日クライストチャーチカジノが500名の従業員に対し、解雇もしくは給料未払いの退社の申し入れをした。

カジノも2月の地震以来閉まっており、いつ再開するかの目処はたっており、500名以上の従業員がそれ以降給料を受け取っており、金額にして週\$41万ドルにも登っていた。

クライストチャーチカジノのチーフエグゼクティブであるBrett Anderson氏はこの解雇の発表は非常に残念なことだが、将来において全く見通しが立たないというのがビジネスを運営している以上現実として受け入れなければならない

とコメントしている。

(NZ大好き 社会 2011 年 4 月 4 日)

クライストチャーチの学校実態

今週からスクールホリデーが始まり、クライストチャーチ在住の何千もの学生にとっては慣れない学生生活での疲れが取れる貴重な休みとなっている。

2 月のクライストチャーチ大地震後、閉校した学校は、開講している 20 校と共有する形で再開しており、閉校のため通学できなくなった 6 千人もの学生が転校せざるをえなかった。

授業時間及び体制も大幅に変更となり、例えば Cashmere 高等学校では、Cashmere 高校の学生が朝のシフト、つまり朝 8 時から昼 12 時半まで授業を受け、その後 linwood の学生が入れ替わり夕飯時まで授業を受けるという形となり、短縮された授業内でこれまで通りの学習を強いられている学生や生徒達は苦悩しており、中には通学に何時間かかる生徒もいるなど、生活環境は悪い。

その他、今後冬の季節となり日没が早くなるため、暗い中学生が下校しなければならないことに対して学校職員等は懸念している。

(NZ大好き 社会 2011 年 4 月 19 日)

東芝がNZから地熱発電所タービンを受注

東芝は 4 月 5 日、ニュージーランドの Contact Energy が建設を予定している北島(North Island)のタウポ(Taupo)火山帯に位置しているテミヒ(Te Mihi)地熱発電所のタービン、発電機、復水器を受注したことを発表した。

同契約に基づき、2 基の 8.3 万 kW 級地熱タービン、発電電動機、復水器が 2012 年に納入されることとなる。地熱発電は再生可能エネルギーである地下のマグマだまりによって熱せられた熱水と水蒸気を利用する発電方式で CO₂ の排出量に少なく、また天候や気象条件に左右されることがないのが特徴。そのため、最近では地熱発電の開発が世界的に進められており、現在、世界の地熱発電設備容量は約 1000 万 kW に達しているといわれている。

東芝は、1966 年に岩手県松川地熱発電所に設備を納

入して以来、北米、東南アジア、アイスランドなど世界各国で 52 台の設備を納入しているが、ニュージーランドにおける地熱発電所向け設備の受注は今回が初めてだという。

(マイコミニュース 4 月 5 日)

100 年前の「南極ウイスキー」を再現、5 万本を限定販売

【4 月 6 日 AFP】100 年以上前に英国の探検家が南極の凍土に残したスコッチウイスキーを持ち帰って分析していたニュージーランドの南極歴史遺産トラストが、このウイスキーを再現し限定販売すると発表した。

このウイスキーは、英国の探検家アーネスト・シャクルトンが 1907 年から 08 年にかけて南極探検を行った際に残したもの。シャクルトン探検隊は南極点を目指したが失敗に終わった。ニュージーランド・クライストチャーチを拠点とする南極歴史遺産トラストが 2006 年、シャクルトン探検隊が南極で使用していた小屋を調査中にスコッチウイスキーの「マッキンレー」11 本が入った木箱を発見し、2010 年にニュージーランドに運んでいた。

このうち 3 本は、スコットランドにある「マッキンレー」の製造元、ホワイト・アンド・マッカイの蒸留所に送られ、マスターブレンダー、リチャード・パターソン氏が研究室で分析していた。

南極歴史遺産トラストのナイジェル・ワトソン氏によると、当時の醸造法記録は残っていないが、パターソン氏がさまざまなモルトのブレンドを試み、再現に成功。限定ブレンドとして、5 万本を 100 ポンド(約 1 万 4000 円)で販売するという。

このうち 5%が南極歴史遺産トラストに支払われる。40 万ドル(約 3400 万円)の収入が見込めるため、ワトソン氏は同トラストの南極の歴史遺産保存活動に充てたいと話している。

これまでのところ、パターソン氏のほかに「南極ウイスキー」を試飲したのは、ウイスキー評論家のデービッド・ブルーム氏だけだ。氏は「このウイスキーを味わったとき、驚きを隠せなかった。品質が優れていただけでなく、なかなか繊細なスタイルを持ち合わせていたんだ」と語った。

南極のシャクルトン探検隊の小屋からは、持ち帰ったもののほかにも、ウイスキー2箱、ブランデー2箱も見つかっているが、こちらは小屋の床下に残されたままだ。

一方、ニュージーランドに運ばれたウイスキーの木箱には、本来ならば12本のウイスキーが入っているはずだった。1本足りない理由については、おそらくシャクルトンが探検隊員が、極寒の南極で体を内側から温めようと飲んだのではないかとみられている。(c)AFP

世界のすべての言語、アフリカの「祖語」にさかのぼる

最新の研究によると、世界中でおよそ6,000種類ある近代言語のすべてが、5〜7万年前のアフリカで初期の人類が話していた言語を祖語として持つ可能性があるという。

研究成果を発表したのは、ニュージーランド・オークランド大学の進化心理学者クエンティン・アトキンソン氏。4月15日発行の「Science」誌に掲載された。アトキンソン氏によれば、アフリカから他の地域に移住した人々とともに言語が世界に広がり、すべての文化の基礎になったのだという。この発見は、最初の話し言葉の発生と拡散、人類の進化への貢献などに関する説明に役立つ可能性がある。アトキンソン氏の研究は、語の音声を構成する最小の単位である音素に基づくもので、少数の集団が母集団から離れる際に、遺伝的な多様性や複雑性が緩やかに失われるという「創始者効果」の考えを借用した分析が行われている。世界の504言語を調査した結果では、アフリカで使われている言語の音素数が最も多く、南米や太平洋諸島で使われている言語の音素数が最も少ないことが判明したということだ。

現在、世界に6000前後の言語が存在するが、そのすべてが5万〜7万年前にアフリカに存在した初期の人類が話していた祖語から枝分かれしたものである可能性が最新の調査で明らかになった。
(ウォールストリートジャーナル日本語版 4月15日号より)

オールブラックス、ハカの使用契約

ラグビー協会と南部北島のマウイのイウィ(部族)ナツィトアは、オールブラックスが引き続きハカを行えるよう

契約をした。

政府は2009年に、ハカはナツィトアに帰属することを認め、それ以来彼らは、ハカ、カ・マテを自分たちのトレードマークとしてきた。

この合意は長年に渡る交渉の結果であり、オールブラックスが公正にハカを行うことと、ハカはナツィトアの物であることを明確化した、とラグビー協会のSteve Tew氏は語る。

オールブラックスは、試合前のカ・マテを100年以上も行っており、ハカはチームの歴史、文化の象徴となっている。

(NZ大好き 社会 2011年3月25日)

オークランド公園が禁煙

オークランド市議会によって施行された新政策により、24箇所の公園が禁煙地区になることになった。既にオークランド動物園、Mt Smart スタジアム、Eden Park、ManukauとWaitakere地区では子供が利用するスケートパーク、スポーツ施設が禁煙となっており、今後も禁煙地域は増えていく意向だ。

ニュージーランド政府は世界各国の中でも禁煙に対して非常に積極的であり2025年までに「禁煙国」にすべくタバコのパッケージや陳列方法までにわたり細かく法律を検証している。そして今年7月からは囚人の67%が喫煙者という刑務所内の禁煙を実行する予定となる。

(NZ大好き 社会 2011年4月10日)

東麻布に NZ ビーフとラムのグリルダイニング 食肉輸入販売会社が開く

東麻布に4月5日、ニュージーランドのビーフとラムがメインのグリルダイニング「WAKANUI(ワカヌイ)」(港区東麻布2、TEL 03-3568-3466)がオープンした。経営はアンズコフーズ(港区)。

店舗面積はテラスを含め62坪。席数は48席。熟成中の肉がズラリと並ぶガラス張りの部屋の奥にダークな色調でまとめた空間が広がる。座席はゆったりと配置し、地下ながらテラスには自然光を取り入れた。

1984(昭和 59)年からニュージーランド産食肉の輸入販売を手掛ける同社。店名の「ワカヌイ」は肥育場のある街の名前であると同時に、「ワカ」はマオリ語でカヌー、「ヌイ」は肥沃(ひよく)な土地を意味するという。ニュージーランド産の肉をホテルやレストランの関係者などに PR するアンテナショップの機能も果たす。

主な肉の種類は、牧草で 18 カ月間育てた後、大麦と小麦を主体とした穀物飼料で育てる「ワカヌイビーフ」と、牧草だけで育てた柔らかくジューシーな「牧草牛」、生後約 6 カ月の「仔羊(こひつじ)」の 3 種。紀州備長炭のグリルで料理する。

アミューズとしてサーブするラムチョップは、「当店だからできるサービス」と自信を見せる広報担当の高橋幹子さん。「ニュージーランドのラムチョップは仔羊なので小さく、口当たりが軽いのが特徴」という。「骨付きリブアイ」(7,800 円)も、「1 キロというボリュームながらサッパリしているため、1 人で食べきってしまう方もいらっしゃる」という。

ランチは、ディナーで使った肉の切れ端を使用したハンバーガー(スープ・ローストポテト付き、1,280 円)や、ステーキサンドイッチ(同、1,480 円)、仔牛料理(スープ・パン付き、1,280 円)、ランチプレート(スープ付き、1,280 円)など。

ディナーはアラカルトメニューで、肉以外のニュージーランド食材を使ったものも多い。「マグロのホホ肉ニソワーズサラダ」(1,200 円)や「ニュージーランド産キングサーモンと本日の鮮魚」(1,400 円)など。

ドリンクは、ニュージーランド産ワイン(グラス=800 円～、ボトル=3,800 円～)や、カクテル(以上 800 円～)、ビール(800 円)など。

営業時間は、ランチ=11 時 30 分～15 時、ディナー=18 時～23 時。月曜定休。(六本木新聞 4 月 21 日)



ワイン例会



黙祷



ピーターさん



総会



キャシーさん